

ものを手に入れた夏



努力した時間は 団員の絆になった

9月4日、福島県消防学校において開催された第40回福島県消防操法大会（小型ポンプ操法の部）に、川俣町消防団第4分団が出場しました。この大会は、消防団員の消防技術の向上を目的に開催されるもので、操作の正確さや操法の速さなどで順位が決められる大会です。第4分団のみなさんは、この日のために1年半にわたり、早朝や仕事後に練習を重ねてきました。

川俣町消防団の操法は、タイム54.7秒、合計67点で14位という結果だった。練習の際に何十回に一度という頻度で起こっていたポンプの不具合が本番で出た。「どうしてこんな時に！」誰もがそう思った瞬間だった。

操法後、選手の目からは、一年以上積み重ねた努力と、仲間への想いが、涙となってあふれ出た。しかし、選手を責める者は誰一人としていない。誰もが、選手たちがこれまで人一倍努力し、一番悔しいのは選手だということを知っているからだ。

選手たちにとっては、到底満足できる結果ではなかった。しか

し、操法後、結果よりも大切なものが川俣町消防団には残った。それは、団員同士の友情、そして団結力だ。一つの目標に向かって、想いを共にした時間は決して消えない。

この友情は、地域を守り続ける力として、川俣町消防団に永遠に輝き続けるだろう。

無事に操法を終え健闘を称え合う2人▶



第40回福島県消防操法大会

川俣町消防団第4分団（福沢地区）出場

大切な



選手たちは持てる力を発揮し、全力で操法大会に挑んだ。



真剣な表情で火点を見つめる。



「パパ終わったよ」と息子をなでる。操法は家族の全面的な協力があってこそ。これからは、夜もいっぱいパパに遊んでもらおうね。



指揮者 菅野 洋一さん（西福沢）

どの消防団より長い期間練習してきたので、自信を持って大会に臨むことができました。ポンプの不具合があり、もちろん悔しい気持ちもありますが、指揮者として楽しみながら、練習通りの操法ができたと思っています。長い間、文句も言わず、あたたかく見守ってくれた家族には、心から感謝の気持ちを伝えたいです。



1番員 菅野 康宏さん（西福沢）

消防署のみなさん、団員のみなさんに支えられながら、何とかこの日を迎えることができました。優勝はできませんでしたが、一つの目標に向かって、選手、団員が一丸となって取り組んできました。この絆を、今後の消防活動にも生かしていきたいです。また、支えてくれた家族には、「愛してます」と伝えたいです。



2番員 菅野 良浩さん（西福沢）

優勝を目指してみんなで取り組んできました。選手だけでなく、これまで親身にサポートしてくださった団員のみなさんのためにも、何とか結果を出して恩返しをしたかったです。思い出すと悔しくて涙が出ますが、本当に良い経験ができました。みんなでひとつの目標に向かって真剣に取り組んだ時間が宝物です。



3番員 神野 研さん（西福沢）

団員全員で一生懸命に取り組んできた大会です。練習では大変なこともありましたが、最高の仲間にも恵まれ、選手として参加できてとても幸せでした。休みの日や夜間に100回以上練習を行い、家族には大変な迷惑をかけてきました。家族の協力があってこそここまでこれました。本当にありがとうございました。



補助員 渡辺 裕太さん（西福沢）

操法はゼロからのスタートでした。長い練習の日々の中、大変なこともありましたが、みなさんの支えがあり、操法をやり遂げることができました。

結果に満足はできませんが、第4分団がチーム一丸となって取り組めたことが、何よりも大切なことだと思います。支えてくれたみなさんに、心から感謝したいです。



高橋 良弘 分団長（西福沢）

優勝という大きな目標に向かい、第4分団が一丸となって取り組んできた操法大会でした。団員をはじめ、協力してくださった全ての方に心から感謝いたします。特に選手の5人は長く厳しい練習にも耐え、本当によくやってくれました。欲を言えば、彼らに優勝を、せめて入賞をさせてやりたかったのですが、かないませんでした。しかし、ここに至るまでの過程から、結果以上に大切な「団結力」が第4分団には残りました。この力を、これからの消防活動に生かし、地域へ恩返ししていければと思います。



操法後の表情。悔しい操法だった。でも、この仲間がいたからこそここまで頑張れた。操法大会で、心から信頼できる最高の仲間ができた。